

| 弘前市協働によるまちづくり推進審議会 会議録概要 (第1回) | | | |
|--|------------------------------|---|--|
| 日時 | 令和4年7月19日(火曜日) 18時00分～20時00分 | | |
| 場所 | 弘前市役所市民防災館3階 防災会議室 | 傍聴者 | 4人 |
| 出席者 (22人) | 委員 (15人) | 佐藤会長、藤岡職務代理者、野口委員、下山委員、大藪委員、大村委員、大西委員、鴻野委員、安田委員、大塚委員、葛西委員、斎藤委員、花田委員、松山委員、女川委員 | |
| | 執行 機関 (7人) | 市民協働課 | 櫻田市長 岩崎市民生活部長、高谷課長、村田課長補佐、菊池主幹兼協働推進係長、田澤主査、片岡主事 |
| 会議概要 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 組織会 <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長の互選について (2) 会長職務代理者の指名について 5 諮問書提出 6 事務局員紹介 7 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 審議会の趣旨及び役割等について (2) 令和3年度答申への対応について(報告) (3) 協働によるまちづくりに関する市民意識アンケートの推移について(報告) | | | |
| 【各委員の意見等】 | | | |
| <p>委員：10代と20代の回答率が、合計でも10%に満たない状況です。今多くの若者世代がスマートフォンを使った生活に慣れきっているところがありますので、スマホを通してのアンケート回答の実現可能性がどの程度あるかをお聞きしたいです。また、10代・20代・30代・40代や女性・男性・その他など属性ごとのクロス集計について、全部トータルで集計してしまうと、今後どういうところを対策していくのがちょっとぼやけると困るかなと思ったんですけど、このクロス集計の実現の可能性がもしあればお聞かせ願えればと思います。</p> | | | |

事務局：委員からのご意見を参考にさせていただきながら、今後アンケートの調査方法について検討したいと思います。

委員：アンケート報告書の9ページのところで伺います。「あなたは、今後まちづくりに参加したいと思いますか？」という質問に対して「機会があれば参加したい」という方が非常に多いというようなご報告でした。私も市民としていろいろなイベントに参加させていただきましたが、イベント自体の集客方法や告知方法は、弘前市として何か統一されたラインがあるのか、それとも各課がそれぞれのイベントをそれぞれの方法で周知告知しているのか教えていただけないでしょうか。

事務局：統一されたものは無く、それぞれの担当部署で判断して、その事業の内容や対象者などに合った媒体を考えながら、選んで周知しています。

委員：ありがとうございます。ということは、上手く集客できたとか、上手くイベントが成功した要因というものを弘前市役所の中で共有されているという理解でよろしいでしょうか？

事務局：実際のところ、共有までは至っていない状況です。

委員：わかりました。そこはじゃあ共有すると上手く集客できたりとか、そういう可能性は、今後出てくるかもしれないということですね。

事務局：そうですね。

(4) 令和4年度における審議方針及びスケジュールについて

(5) 協働によるまちづくり基本条例に関する説明

会長：協働のまちづくりとは『誰もが、いつでも、どこでも、住んでよかったと思える弘前市を、「市」が中心になって、市民に呼びかけ、「市と市民」が「共通の課題」を協働して（知識・技術・労力・物資・資金など）作り上げる過程』と言えるのではないかと考えています。これ

をたたき台にして、皆さんに合意形成を図っていただきます。

(6) 『協働』によるまちづくり」について

【各委員の意見等】

会 長：今度は、共通の課題を市が中心になって、もう少し一緒にやっていく。ただ、市が勝手にこれを一緒にやりましょう、あれをやりましょうではなく、何を決めていくかを市民と考えながらやっていく。そういう協働に踏み込んで行ってもいいのではないかなど。このような方向で、我々のまちづくり、協働のまちづくりを考えて行ったらどうかなというたたき台を出してみましたので、いろいろとご意見を伺っていただければいいかなと思っています。いかがでしょうか？

委 員：私も会長のご意見に賛同したいと思っています。弘前市を中心とした弘前圏域8市町村の移住定住促進においても、協働はとても重要なテーマになっていると思います。青森県全体としても、小規模多機能自治のような地域住民主体の地域づくりの推進にまだ少し課題があると思っています。会長がおっしゃる通り、そろそろ本気でその辺をどう捉えていくかという時期に差し掛かっているのかなと思います。そういう意味で、本当にこのタイミングで今後の弘前市の地域づくりのあり方を検討していけるといいのかなと思っています。

委 員：会長のおっしゃるようなまちづくり、誰もがいつでもどこでも、弘前市に住んでいて、市民の皆さんが「住ませてあげたい、住んで良かった」という意識を持つような地域にしようということについては、私の所属する団体でも、そのためには何をやるべきかというのが話題になっています。新型コロナウイルスの影響で、活動が鈍ってしまっている状態が続きました。これからの活動の仕方としては、まず動こうと、動くことから始めようということにしております。その動くことは、すなわちただ一人一人が動くのではなくて、団体活動そのものが動き出すことになります。このことが、まちづくりのきっかけになりますようにと思っております。

委員：この審議会として、最初に協働に対する共通理解を持って進めようということにすごく賛同しました。会長のお話で、協働の目的、住み良い弘前市をつくり市民生活を豊かにするというので、誰もがいつでもどこでも住んで良かったと思える弘前市を市が中心となって市民に呼びかけ、市と市民が共通の課題を協働して地域同士、地域を作り上げる過程であること、本当にその通りです。ここにひとつ付け加えていただきたいのが、やはりこの時代ですので「情報」ですよ。情報を共有して作り上げていくという視点が必要かなと思いました。そして、そのコミュニティづくりというまちづくりと、協働のまちづくりというこの2つがあって、すごくわかりやすかったんですが、小中学校区を中心に、私たちは住民自治をやってきたんですけど、それが難しくなっているから、協働という方に大きく舵を切らなければならないというのが現在の問題かなと思います。アンケートを見ても、市民は市民なんですけど、何と言うか市民の意識がないというか、自分事じゃないんですよ。誰かに何とかしてもらいたいみたいな。だから、こうして欲しいという意見や文句は言うけれども、自分は忙しいし機会がないから、なかなかまちづくりは参加できないと言う。ですから、あなたのものだよという意識をすごく醸成する情報発信というのが非常に重要になってくると思います。例えば、生活に直結すること、ゴミや雪の問題などの情報をどういう風にポジティブに発信していくかということが、この協働のまちづくりのカギになっていくのではないかと考えます。例えば、子育て支援なども一生懸命頑張っていますが、子育て世代だけのことではなくて、全市民に関わることですよね。生活というのは。どのようにして情報発信していこうかというのを今回話し合えるということで非常に楽しみです。

例えばSNSを使った情報発信では、神奈川県葉山町が非常にインスタグラムを使った情報発信で成功している事例がありますので、こうしたことも参考にしながら、私たちの弘前市ですべての人に響くような、もう少しアンケートの回答率も上がるような、「協働」というものをポジティブにやって行けるような審議ができたらいいなと思いました。

委員：会長のご講義は、非常に勉強になりました。そのうえで、弘前市が協

働のまちづくりに先進的だということを経長のご講義で初めて知りましたし、すごく嬉しいなという気持ちも抱きました。

先ほどの委員もおっしゃったように、私自身もそうなのですが、まちづくりは市役所がやるものみたいなイメージや思い込みがやっぱりあります。だから、その思い込みを変えていかなきゃいけないなと強く感じました。同時に、思い込みを壊して、市民の皆さんを巻き込んでいく仕組みづくりをしていく。それが、情報発信に繋がってくると思います。そういったことをやっていかななくてはいけないのではないかなというふうにも感じました。やはり、すごく先進的な取り組みをやっているという経長のご講義を他の市民の皆さんにも是非聴いていただきたいなとも強く思いましたし、そういう取り組みを今までやってきたのかということを経務局にお聞きしたいです。このような市民向けの講義などは、過去にあったのでしょうか。

事務局：経長のご講義は、市民向けには実施しておりませんでした。市職員の職員研修としては、毎年実施しております。

委員：経長の講義は短い時間でしたが、心打たれるものがあつたので、ぜひ他の市民の皆さまにも提供できる機会があればいいなと思いました。ありがとうございました。

経長：この合意形成をベースにしながら、随時議論の中で確かめ合いながら膨らませながら行ければいいかなと思っております。今までのコミュニティも弘前市を良くしていくことには変わらないわけだから頑張つてやってもらいつつ、もう少しきちんと市と市民が話し合つてこういうことをやろうよということを経が主導して広げていくのが協働かなと思います。今日は一応の合意形成をして、今後の会議を進めて行くということによろしいでしょうか。それでは、今日の議論はこれで終わりたいと思います。

8 事務連絡

9 閉会